

# サステナブルなイベント開催を目指して

2025年2月18日

株式会社セレスポ

越川 延明

株式会社博展

白川 陽一



# 越川 延明（こしかわ のぶあき）

株式会社セレスポ

執行役員 人事総務部長 兼 広報室長

- サステナビリティを軸に組織開発・人材育成・PR・CSRと友人づくりに取り組む
- 大きな話で人を巻き込むのが得意、細かい仕事が苦手
- （一社）日本イベント産業振興協会  
サステナビリティ委員会 委員長  
人材育成委員  
日本展示会協会 環境保全委員



# 白川陽一 | YOICHI SHIRAKAWA

株式会社 博展

サステナビリティ推進部長 兼 サステナブル・ブランド事業部長

1級建築施工管理技士

2002年 株式会社博展入社

■制作施工管理領域でキャリアの大半を過ごす

■2019年からサステナビリティ領域を担当

- ▶サステナブル・ブランド国際会議 主催事業
- ▶イベント制作に対するサステナビリティ実装推進

- ・日本イベント産業振興協会(JACE) サステナビリティ委員会
- ・日本展示会協会 サステナビリティ推進委員会 副委員長
- ・TEAM EXPO イベント・MICEサステナブル運営推進コンソーシアム メンバー



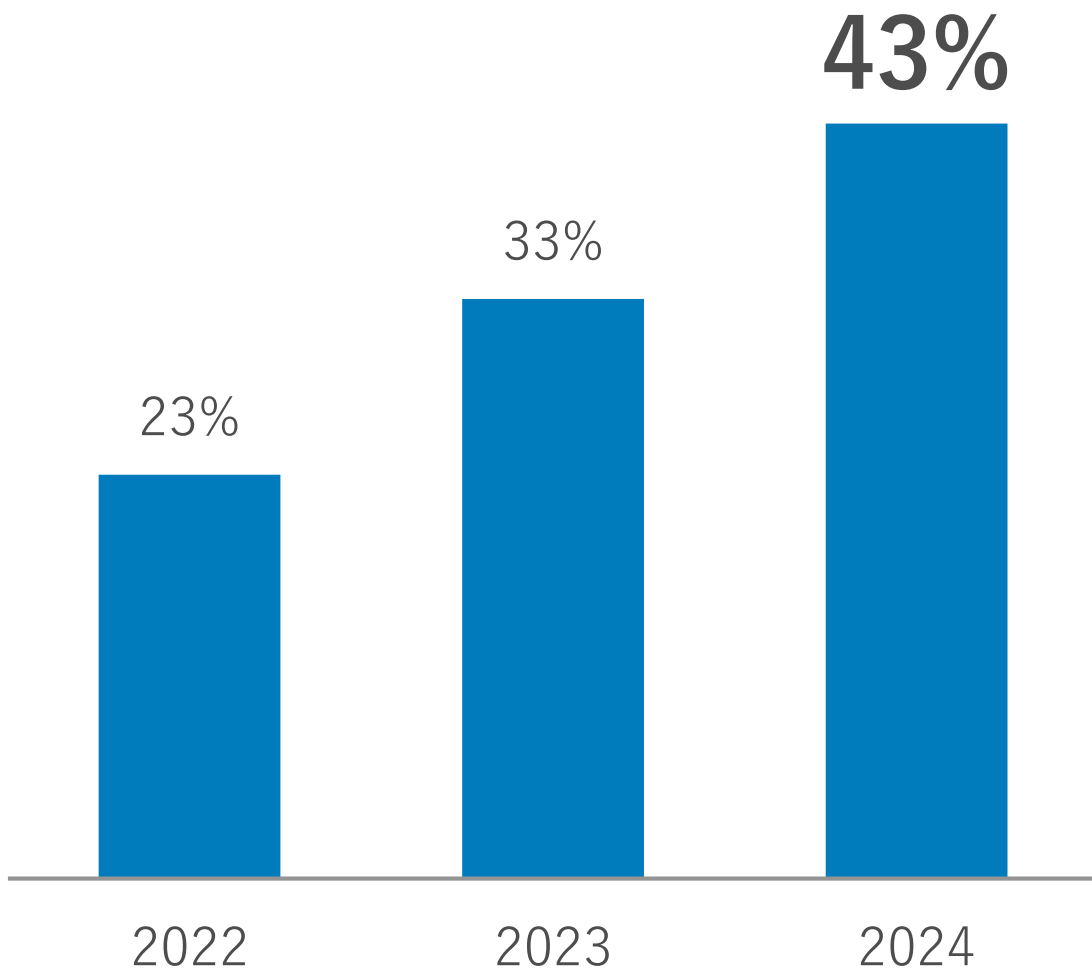


# 地球沸騰化の時代が到来した

The era of global boiling has arrived

国連事務総長 アントニオ・グテーレス

2023年7月27日



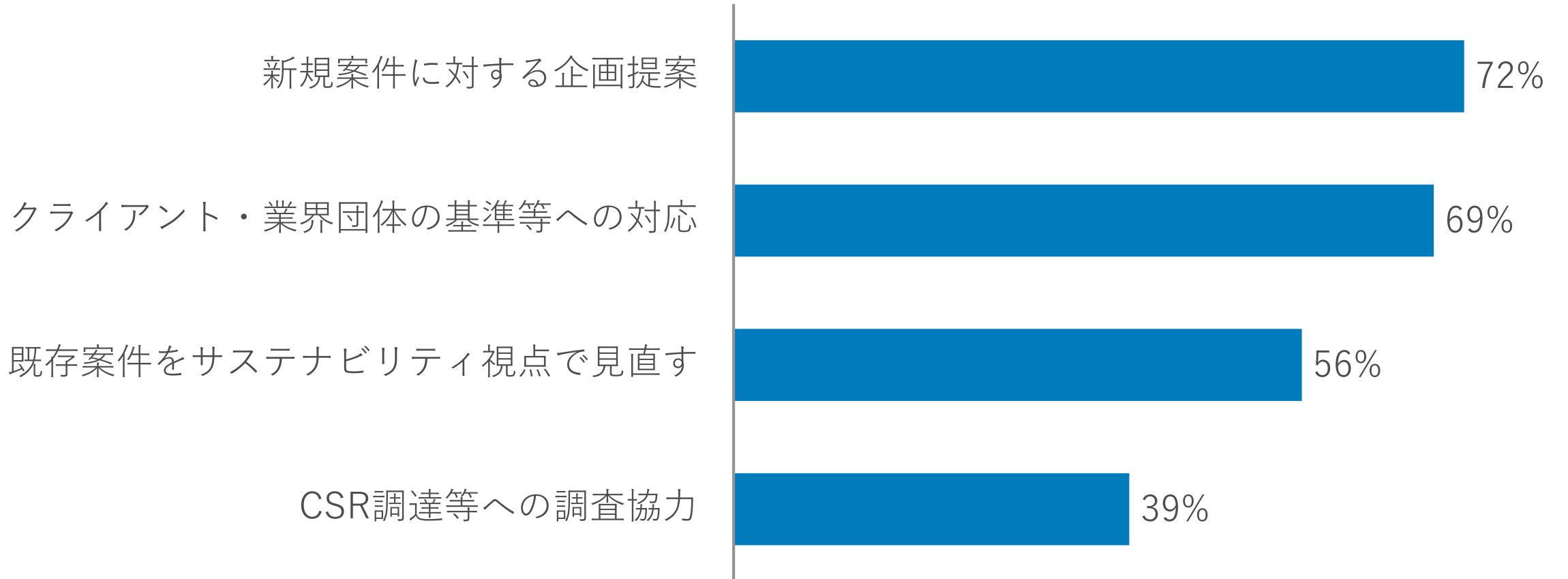
以前に比べ、  
サステナビリティに関する  
顧客の要望は増えましたか  
(「とても増えた」の回答割合)



# 顧客からの要望が増えた場合

どのような要望があるかを教えてください。

複数回答可、回答数：36



# サステナビリティについて関心のあるテーマ

	2022年		2024年	
1	廃棄物管理	71%	コンプライアンス	76%
2	コンプライアンス	54%	<b>労働安全衛生</b>	71%
3	ジェンダー（LGBTQ含む）	50%	<b>脱炭素</b>	67%
4	脱炭素	48%	<b>資源循環（廃棄物管理）</b>	64%
5	労働安全衛生	46%	<b>人権</b>	62%
6	障がい者	40%	<b>差別・ハラスメント</b>	62%
7	差別・ハラスメント	39%	<b>省エネルギー</b>	60%
8	健康	37%	健康	60%
9	省エネルギー	35%	ガバナンス	60%
10	教育・文化	33%	教育・文化	52%

出典：一般社団法人日本イベント産業振興協会「会員企業のサステナビリティに関するアンケート調査2024」

# イベントと関連性の高い社会課題の潮流

	環境		人権	
	脱炭素	資源循環	労働安全衛生	DE&I
2011			ビジネスと人権に関する指導原則 採択	
2014			VISION ZERO採択	
2015	SDGs（持続可能な開発目標）採択			
	パリ協定合意			
2018			OECDデューデリジェンスガイダンス 採択・発行	
2019	気候変動サミット			
2020	2050カーボンニュートラル宣言	循環経済ビジョン2020 発表	ビジネスと人権に関するナショナルアクションプラン 公表	
2022	ネイチャーポジティブに関する国際目標が決定			
2023	GX推進法 成立	成長志向型の資源自律 経済戦略 発表		LGBTQ理解増進法 成立
2024				改正障害者差別解消法施行

※日本国内の出来事



企業にとって

サステナビリティは義務的に対応するもの

企業価値を持続的に向上させるもの

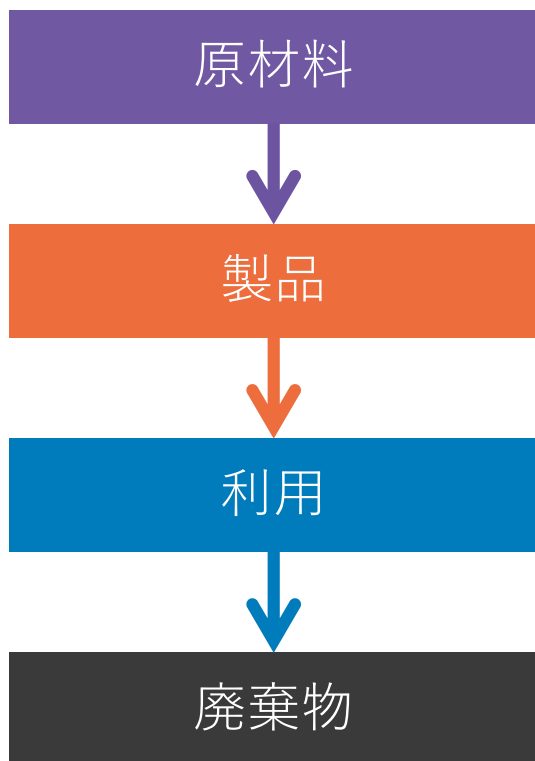
**リスク回避、生産性向上、事業創出**

# サステナビリティへの対応の遅れが与える影響

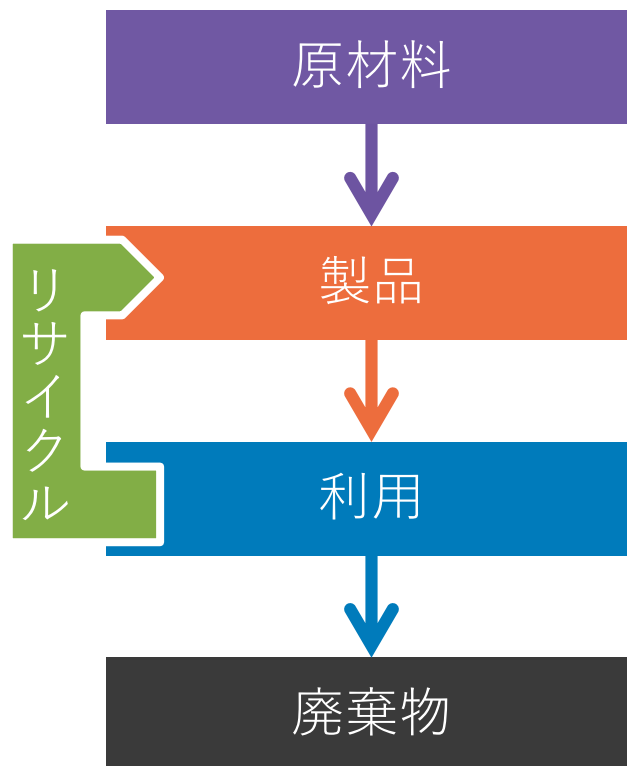
業績への影響	売上低下	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 不買運動</li><li>・ 取引停止・輸入禁止</li><li>・ 業務停滞</li><li>・ 事業撤退</li></ul>
	コスト増加	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 罰金</li><li>・ 訴訟・賠償対応</li></ul>
企業価値への影響		<ul style="list-style-type: none"><li>・ 株価の下落</li><li>・ ブランド価値の毀損</li><li>・ 採用力の低下</li></ul>

# 経済社会の変化

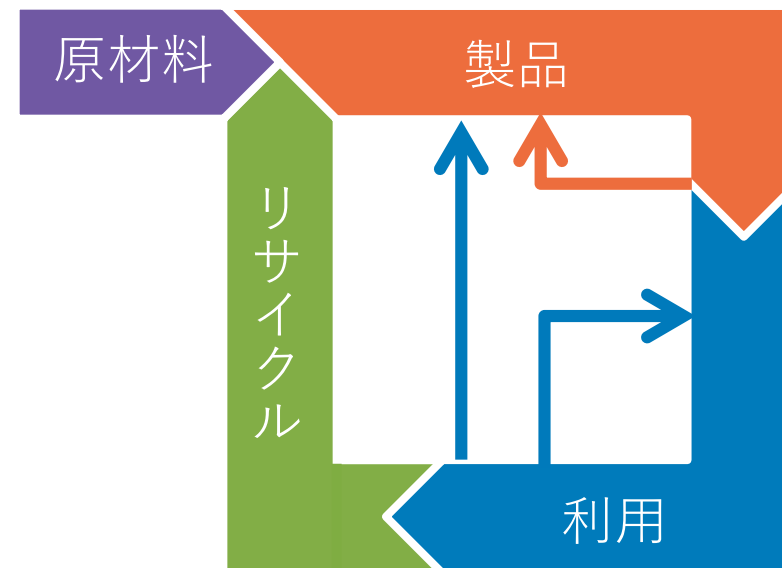
## リニアエコノミー (直線型経済)



## リサイクリングエコノミー (再資源型経済)



## サーキュラーエコノミー (循環型経済)



# “ガイドブック”に込めた意味

	ガイドライン	ガイドブック
位置づけ	基準（やるべきこと）	考え方（取り組めること）
活用方法	記載内容を実践	自分たちに合わせて活用
メリット 効果	<ul style="list-style-type: none"><li>強制力を働かせやすい</li><li>評価・比較がしやすい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>規模・状況に合わせて柔軟に使いやすい</li></ul>
デメリット 懸念事項	<ul style="list-style-type: none"><li>記載内容以上の取り組みが進まない</li><li>骨抜きになりやすい （記載内容・評価）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>強制力が弱い</li><li>評価・比較が</li><li>取り組みが限定的になる可能性がある</li></ul>



# 使いやすいサステナビリティガイドブックの構成

## ガイドブック

イベント制作で  
サステナビリティに  
取り組むための  
基本的な情報

## チェックリスト

イベント制作で  
サステナビリティに  
取り組めることの一覧

# イベントをウォッシュツールにさせない

ホワイトウォッシュ

ごまかす、粉飾する、うわべだけ飾るという意味。

- 実態がないのにあるように見せかける
- 実態以上に取り組んでいると見せかける
- よい情報だけを伝達している

グリーンウォッシュ  
(環境)

ブルーウォッシュ  
(社会的責任)

SDGsウォッシュ  
(SDGs)

ピンクウォッシュ  
(LGBTQ+)

# ウォッシュを回避するためのポイント

## 取り組み

- ① 行動がコミュニケーションの目指すところと矛盾しない
- ② 内容が国際社会での合意、科学的見解と合致している
- ③ 国や地域、時代や社会の状況を考慮した判断がされている

## 表現

- ④ 根拠がない、情報源が不確かな表現を避ける
- ⑤ 事実よりも誇張した表現を避ける
- ⑥ 言葉の意味が規定しにくい曖昧な表現を避ける
- ⑦ 事実と関係性の低いビジュアルを用いない
- ⑧ 条件付きの場合、明確に示す
- ⑨ 正しい選択をしてもらうために必要な情報を隠さない





An offshore wind farm with several wind turbines visible against a clear blue sky and calm sea. The text is overlaid on the image.

Case Study  
サステナブル・ブランド  
国際会議

# Initiatives as an organizer

サステナブル・ブランド国際会議での取組

## イベントへのサステナビリティ実装に向けた実証実験からビジネスへの実装へ ガイドライン活用で確実に前進





# サステナブルなイベント実施・運営へのチャレンジ

“TOKYO MICE サステナビリティガイドライン”を活用し  
SB国際会議を実証実験のフィールドとして活用



TOKYO MICE Sustainability Guidelines

主催者

- MICEを主催する組織
- 主催者の取組を代行する事業者 (PCC/広告代理店/DMCなど)
- 主催者や主催者の業務を代行する事業者などがその影響力を利用してコンテンツを制作するサプライヤー (例: 会場/機材、デザイン、印刷、レンタル機材 (音響・照明・映像など)、ウェブ制作、システム構築、グッズ制作/販売/流通、人材派遣など)

内容	レベル	タグ	MEMO	種別
1. 総則と目的				
1.1 目的と目的	レベル1			1.1
1.2 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル2			1.2
1.3 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル3			1.3
1.4 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル4			1.4
1.5 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル5			1.5
1.6 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル6			1.6
1.7 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル7			1.7
1.8 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル8			1.8
1.9 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル9			1.9
1.10 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル10			1.10
1.11 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル11			1.11
1.12 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル12			1.12
1.13 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル13			1.13
1.14 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル14			1.14
1.15 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル15			1.15
1.16 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル16			1.16
1.17 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル17			1.17
2. 編成				
2.1 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル1			2.1
2.2 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル2			2.2
2.3 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル3			2.3
2.4 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル4			2.4
2.5 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル5			2.5
2.6 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル6			2.6
2.7 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル7			2.7
2.8 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル8			2.8
2.9 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル9			2.9
2.10 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル10			2.10
2.11 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル11			2.11
2.12 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル12			2.12
3. エネルギーと水				
3.1 目的達成のために必要とされる事項は、主催者自身や関係者の役割を定める	レベル1			3.1

**ISO:20121**  
Sustainable Event  
Management System

**セレスポ**

イベント制作会社として日本と初めて  
2016年11月に登録取得済み

**TOKYO MICE**  
サステナビリティ  
ガイドライン

協力：公益財団法人 東京観光財団

管理と教育

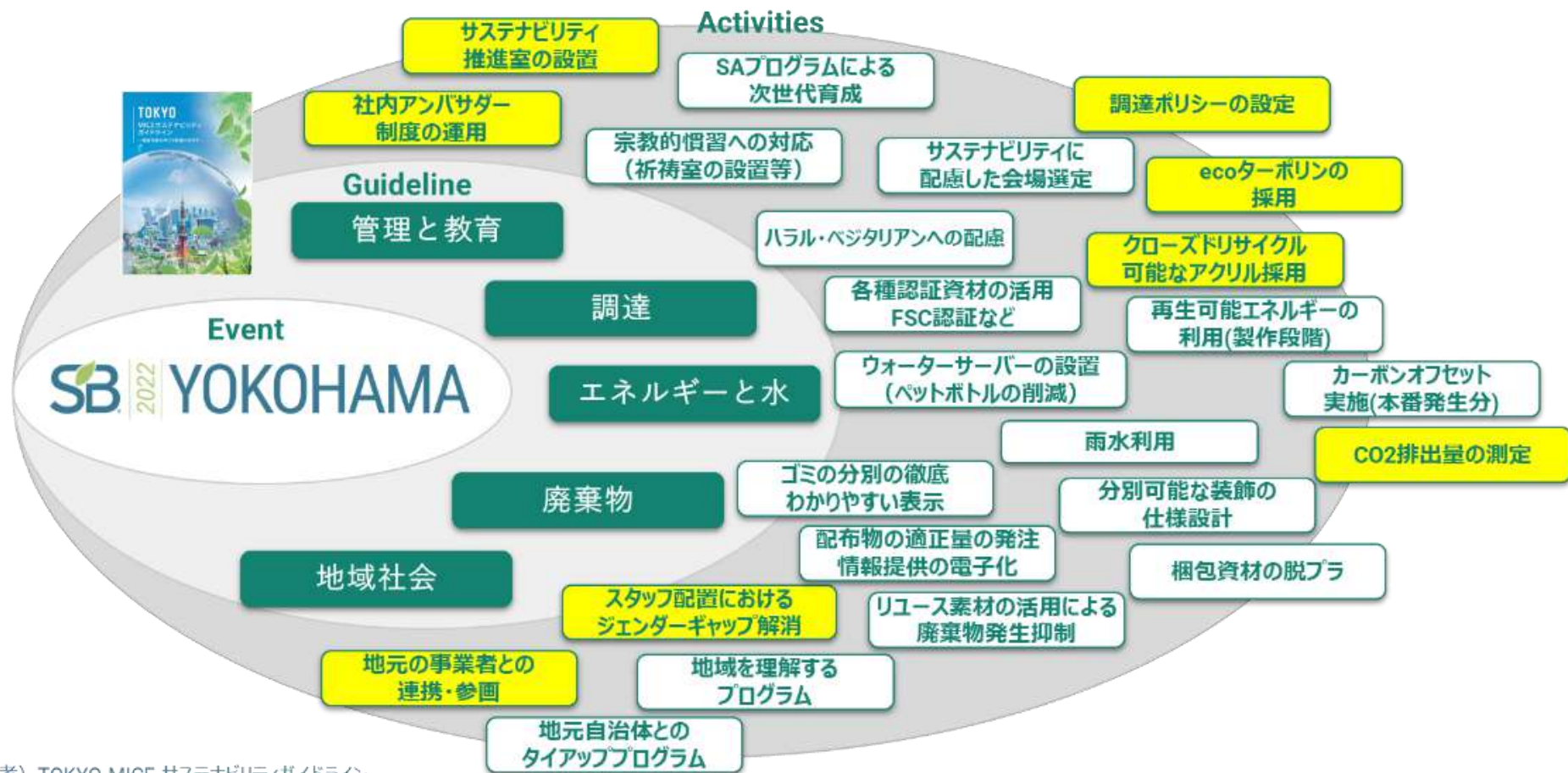
調達

エネルギーと水

廃棄物

地域社会  
(コミュニティ)

# 5年間(2020-2024) に渡り、ガイドラインを活用 イベントのサステナビリティが着実に向上



42/50 (2020)

46/50 (2021)

48/50 (2022)

49/50 (2023)

49.5/50 (2024)

参考) TOKYO MICE サステナビリティガイドライン

[https://businessseventstokyo.org/ja/sustainable\\_business\\_events\\_in\\_tokyo/](https://businessseventstokyo.org/ja/sustainable_business_events_in_tokyo/)





# サステナブル・ブランド国際会議2024 東京・丸の内での取組

## ATTEMPT

### 取り組み概要



#### 調達

- サプライヤーへの調達方針の共有、協力依頼
- 地産地消の素材の活用
- 資源循環に配慮した素材の調達



#### エネルギー

##### カーボンニュートラルなイベント開催

- すべてのCO2排出量の削減 (SCOPE3含)

※SCOPE1: 会場・機材の燃焼  
 ※SCOPE2: 会場・機材の電力  
 ※SCOPE3: 会場・機材の輸送・宿泊・機材の製造・廃棄

- 省エネルギーを推進し、建物にカーボンオフセットを実施

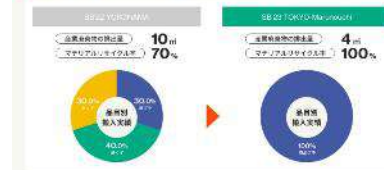


- 社会貢献活動からクレジットが買収の確保
- 会場へのウォームヒースの活用
- 会場照明の削減

#### 廃棄物

##### 廃棄物の排出ゼロ

- 廃棄物の種類・量・処分方法の見直しによって、排出量を削減
- 資源素材、工場の買直しにより、マテリアリティサイクル率向上



- ウォーターサーバーの削減 (プラスチックごみ、給電みの削減)
- フードロスの削減 (ファンファーードでの提供、減量品の提供、コンポスト利用)
- 表紙フォルダ、ストラップの再利用

#### 多様性配慮

- 日英2か国語の対応 (サイト、案内、通訳)
- 宗教的慣習への対応
- 次世代育成プログラムの実施
- 登壇者のジェンダーバランスへの配慮
- スタッフ配置のジェンダーギャップの解消
- ユニバーサルデザインのチェック項目に基づく監査の実施



#### コミュニティ (地域社会)

- MICE・イベント関係者・DMO認定法人向けの特別プログラムの開催
- 教育委員会と連携し、全国の小中学校教員の招待プログラムを実施
- 地域のDMOとの連携 (DMO Tokyo Marunouchi)
- 地域の魅力を伝えるセッションの開催



# 具体的な取組事例①

## 調達

### サステナブル・ブランド国際会議2023 持続可能性に配慮した調達へのご協力依頼

サステナブル・ブランド国際会議(主催:博展)は、イベントの持続可能性に配慮した計画に基づき、取組を推進しています。その中で、主催者としては、会議の準備・運営段階の調達プロセスにおいて、持続可能性に配慮した調達を行うことで社会的責任を果たすと同時に、イベントのサステナビリティの向上に資する取組を積極的に推進していくことで、イベント・MICEにおける消費・生産パターンの変革に繋げていくことを目的としています。

この「持続可能性に配慮した調達」においては、SDGs等の国際的な合意及び行動規範を尊重し、法令遵守を始め、気候変動や資源の枯渇などの環境問題や人権・労働安全衛生問題の防止、公正な事業慣行の推進や地域経済の活性化等への貢献を考慮に入れた調達を実現するための基準を定めるものとします。

#### 【持続可能性に関する3つの基本方針】



#### 【持続可能性に配慮した物品やサービスの優先調達基準】

透明・公平・公正な取引で調達している製品の優先調達。下記4つの分類のいずれかに該当していく材料を優先して選択する

再生材/未利用資材活用型	循環型	持続可能性配慮型 人権・労働安全衛生への配慮 製造過程/生産地への配慮/生物多様性の維持向上	適正処分型
<ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクル原材料が30%以上含まれている</li> <li>資源としての活用が制限されている原材料を有効活用したもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用後、原材料への循環が可能</li> <li>使用後、素材としてUPサイクルが可能</li> <li>生分解性を有しており、土壌、水質汚染の原因とならない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製造過程における再生エネルギーの活用</li> <li>遠隔地からの輸送によるCO2排出量への配慮(近地からの調達)</li> <li>原材料に含まれる有害物質の排除/労働者への健康被害の回避</li> <li>児童労働及び劣悪な労働環境の排除</li> <li>輸送/廃棄時における生態系への悪影響を回避</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>埋立処分の回避</li> <li>熱回収処分の回避</li> <li>処分時の有害物質発生への排除</li> <li>処分時のCO2排出量への配慮</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>再生紙</li> <li>再生プラスチック</li> <li>再生木材</li> <li>パーティクルボード等</li> <li>その他再生建材</li> <li>OSR合板</li> <li>間伐材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄製品</li> <li>ガラス製品</li> <li>※網入りガラス等除く</li> <li>生分解性バイオマス素材</li> <li>メーカーによる回収再生ルートが明確な製品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種認証製品の活用</li> <li>FSC認証</li> <li>フェアトレード認証</li> <li>レインフォレスト認証</li> <li>グリーン購入法適合商品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>処理ルートが明確な製品</li> <li>適切に分解、分別可能な製品</li> </ul>

#### 【サプライヤーの皆様への依頼事項】

- 持続可能性に配慮した調達へのご協力依頼に対するご支持、ご理解及び事前の賛同表明
- 上記、基本方針及び優先調達基準の遵守へのご協力
- 輸送手段の効率化等による、GHG(温室効果ガス)の排出削減に関する取組へのご協力
- 梱包、包装についての簡素化及び資材の選定における環境配慮

主催者として、サプライヤーの皆様に対して

# “持続可能性に配慮した調達”

への協力依頼を実施。

再生材/未利用資材活用型	循環型	持続可能性配慮型 人権・労働安全衛生への配慮 製造過程/生産地への配慮/生物多様性の維持向上	適正処分型
<ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクル原材料が30%以上含まれている</li> <li>資源としての活用が制限されている原材料を有効活用したもの</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用後、原材料への循環が可能</li> <li>使用後、素材としてUPサイクルが可能</li> <li>生分解性を有しており、土壌、水質汚染の原因とならない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>製造過程における再生エネルギー</li> <li>遠隔地からの輸送によるCO2排出量への配慮(近地からの調達)</li> <li>原材料に含まれる有害物質の排除/労働者への健康被害の回避</li> <li>児童労働及び劣悪な労働環境の排除</li> <li>輸送/廃棄時における生態系への悪影響を回避</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>埋立処分の回避</li> <li>熱回収処分の回避</li> <li>処分時の有害物質発生への排除</li> <li>処分時のCO2排出量への配慮</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>再生紙</li> <li>再生プラスチック</li> <li>再生木材</li> <li>パーティクルボード等</li> <li>その他再生建材</li> <li>OSR合板</li> <li>間伐材</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鉄製品</li> <li>ガラス製品</li> <li>※網入りガラス等除く</li> <li>生分解性バイオマス素材</li> <li>メーカーによる回収再生ルートが明確な製品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種認証製品の活用</li> <li>FSC認証</li> <li>フェアトレード認証</li> <li>レインフォレスト認証</li> <li>グリーン購入法適合商品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>処理ルートが明確な製品</li> <li>適切に分解、分別可能な製品</li> </ul>

# 具体的な取組事例①

## 調達

### 持続可能性に配慮した調達 に関するアンケートへのご協力依頼

サステナブル・ブランド国際会議における持続可能性に配慮した調達への  
ご協力について、下記アンケートにご回答をお願いいたします。

#### 1. 「持続可能性に配慮した調達」の内容について

よく理解できる 理解できる よく分からない 全く分からない

#### 2. 御社における調達基準の現状について

積極的に取組んでいる 徐々に取組み始めている これから取組みを検討している 全く取組んでいない

#### 3. 取組んでいる又は取組み始めている方にお伺いします。

具体的な取組み内容についてお聞かせください。

また、これから取組みを検討している方は、今後の取組み予定について  
お聞かせください。

#### 4. 「持続可能性に配慮した調達」の達成・実現について

全て達成が可能 大部分の達成が可能 部分的に達成が可能 達成は不可能

#### 5. 部分的に達成が可能又は達成が不可能を選択された方にお伺いします。

具体的に達成が難しい項目をお聞かせください。

また、達成の為に、必要な支援などがございましたらお聞かせください。

#### 6. 「持続可能性に配慮した優先調達基準」の活用について

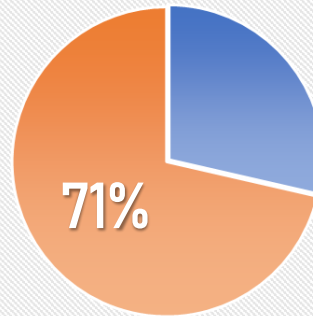
積極的に活用したい 部分的に活用したい 活用のイメージが難しい 活用は出来ない

#### 7. 今回の取組みについてご意見があればお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

## ルールの押し付けではなく、 コミュニケーションをとることからスタート

### 設問①\_持続可能な調達の内容について



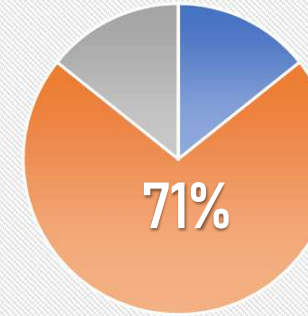
よく理解できる

理解できる

よく分からない

全く分からない

### 設問②\_自社の取組みの現状について



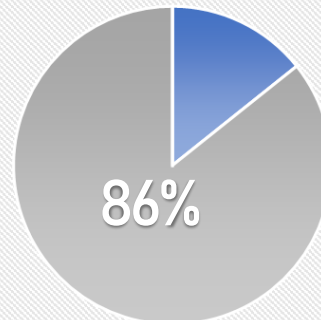
積極的に取組んでいる

徐々に取組み始めている

これから取組を検討している

全く取組んでいない

### 設問④\_持続可能な調達の達成、実現



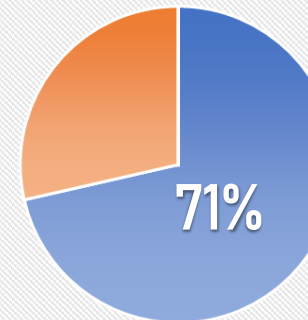
全て達成可能

大部分の達成可能

部分的に達成可能

達成は不可能

### 設問⑥\_調達基準の活用について



積極的に活用したい

部分的に活用したい

活用のイメージが難しい

活用できない



## 具体的な取組事例①

# 調達

### 持続可能性に配慮した調達 に関するアンケートへのご協力依頼

サステナブル・ブランド国際会議における持続可能性に配慮した調達へのご協力について、下記アンケートにご回答をお願いいたします。

1. 「持続可能性に配慮した調達」の内容について

よく理解できる  理解できる  よく分からない  全く分からない

2. 御社における調達基準の現状について

積極的に取組んでいる  徐々に取組み始めている  これから取組みを検討している  全く取組んでいない

3. 取組んでいる又は取組み始めている方にお伺いします。

具体的な取組み内容についてお聞かせください。

また、これから取組みを検討している方は、今後の取組み予定についてお聞かせください。

4. 「持続可能性に配慮した調達」の達成・実現について

全て達成が可能  大部分の達成が可能  部分的に達成が可能  達成は不可能

5. 部分的に達成が可能又は達成が不可能を選択された方にお伺いします。

具体的に達成が難しい項目をお聞かせください。

また、達成の為に、必要な支援などがございましたらお聞かせください。

6. 「持続可能性に配慮した優先調達基準」の活用について

積極的に活用したい  部分的に活用したい  活用のイメージが難しい  活用は出来ない

7. 今回の取組みについてご意見があればお聞かせください。

ご協力ありがとうございました。

## 具体的な取組み

- ・ 資材の再利用化
- ・ 梱包の簡素化、過剰包装の抑制
- ・ 紙製のカタログの廃止
- ・ バイオマスプラの活用
- ・ ISO14001/FSC認証などの活用
- ・ 廃棄物の分別徹底、廃棄物の削減


## 達成/実現に向けた課題

- ・ 調達先(特に中小規模)とのコミュニケーション
- ・ コストや品質、耐久性が従来品と比較して劣る
- ・ 過去に使用していたものの中に有害物質を含むものが存在する。切替や処理に大きなコストがかかる
- ・ 顧客も巻き込んだ取組みにしていくために、業界全体での協調も必要
- ・ EVの普及には時間がかかる。輸送時のCO2排出量削減はすぐには進まない。

# 具体的な取組事例②

## エネルギー

### SB国際会議 CO2排出量推移

Supported by  
 KOKUSAI KOGYO

項目		SB2021		SB2022		SB2023	
		排出量算出 (t-CO2eq)	構成比	排出量算出 (t-CO2eq)	構成比	排出量算出 (t-CO2eq)	構成比
会場	電力使用量(個別オフセット)	0.00	0.0%	0.00	0.0%	9.38	4.2%
	会場利用(水使用量含む)	17.53	18.9%	23.61	17.0%	35.25	15.7%
	会場備品利用	4.17	4.5%				
主催	資材利用	3.59	3.9%	5.14	3.7%	2.38	1.1%
	会場装飾 製作施工	12.06	13.0%	6.26	4.5%	9.52	4.2%
	廃棄	0.23	0.2%	0.23	0.2%	2.21	1.0%
	事務局	2.55	2.7%	1.83	1.3%	2.72	1.2%
	運営	3.42	3.7%	8.09	5.8%	9.89	4.4%
	ケータリング	7.64	8.2%	11.04	8.0%	16.57	7.4%
	映像音響機材利用	5.66	6.1%	4.85	3.5%	6.35	2.8%
	同時通訳	1.91	2.1%	1.42	1.0%	3.18	1.4%
	グラフィック制作	9.59	10.3%	12.07	8.7%	15.63	6.9%
	Web制作	2.67	2.9%	5.63	4.1%	5.28	2.3%
	収録関連	1.59	1.7%	1.90	1.4%	2.44	1.1%
	オンライン配信	6.12	6.6%	5.61	4.0%	8.65	3.8%
	その他	11.97	12.9%	7.72	5.6%	19.33	8.6%
出展者	講師・スタッフ 移動・宿泊	2.18	2.3%	1.33	1.0%	3.47	1.5%
	スタッフ 移動・宿泊	0.00	0.0%	0.16	0.1%	0.95	0.4%
	展示物・配布物	0.00	0.0%	5.98	4.3%	10.85	4.8%
来場者	装飾 搬入・搬出	0.00	0.0%	0.34	0.2%	0.39	0.2%
	移動・宿泊	0.00	0.0%	34.21	24.7%	60.14	26.7%
	オンライン参加	0.00	0.0%	1.11	0.8%	0.57	0.3%
<b>合計</b>		<b>92.88</b>	<b>100.0%</b>	<b>138.53</b>	<b>100.0%</b>	<b>225.15</b>	<b>100.0%</b>
延べ参加者数(名)		4,169		4,513		5,312	
現地参加		1,412	34%	1,915	42%	4,133	78%
オンライン参加		2,757	66%	2,598	58%	1,179	22%

参加人数当り排出量 (t-CO2eq)      0.0223      0.0307      138%      0.0424      138%

2021年→2023年のCO2排出量 変遷

92.88t ▶ 138.53t ▶ 225.15t

参加者一人当たり排出量

22.28kg ▶ 30.70kg ▶ 42.39kg

様々な環境負荷低減の取組みは継続しつつも…

- コロナ影響下からの変化による **現地参加者の増加**
- **開催規模の拡張**による排出量の増加
- **測定方法の精緻化**による **算定項目の拡張**

オフセットパートナーとの連携でカーボンオフセット



# 具体的な取組事例③

## 廃棄物

### 廃材処理の見える化による廃棄物の実質ゼロイベントへのチャレンジ

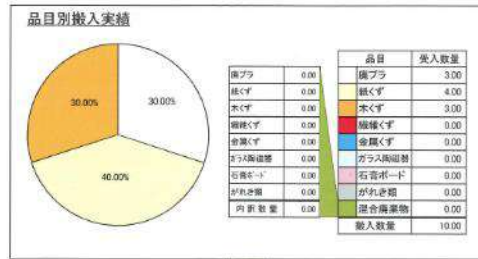
- ・計画段階から廃棄物量を見える化
- ・計画段階でリサイクル方法の検討、選択を実施
- ・実績値も公開



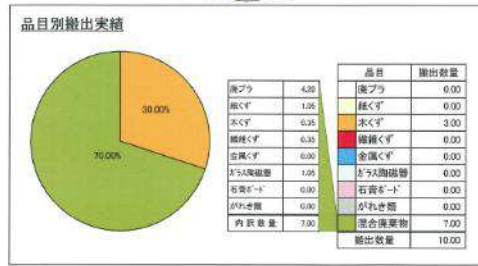
株式会社博展 サステナブル・ブランド国際会議2022横浜 計画/実績表

計画 リサイクル率 95%以上 | 実績 リサイクル率 100.00%

マテリアルリサイクル 70.00% | サーマルリサイクル 30.00% | エミッション 0.00%



選別・圧縮率 0.00% | 選別・圧縮量 0.00 m3



環境SDGs (廃棄物の適正処理、3Rの推進、化学物質の削減)

品目別仕様先別搬出実績

大品目	中品目	仕様先	品目別搬出数量 (t)	品目別搬出割合 (%)	削減率 (%)
廃プラ	0009 再生不可	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0009 再生可能	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0100	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0100	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0100	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0100	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0100	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0100	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0100	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0100	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
紙くず	0109 再生不可	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0109 再生可能	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0200	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0200	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0200	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0200	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0200	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0200	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0200	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0200	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
木くず	0309 再生不可	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0309 再生可能	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0400	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0400	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0400	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0400	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0400	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0400	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0400	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0400	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
繊維くず	0509 再生不可	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0509 再生可能	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0600	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0600	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0600	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0600	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0600	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0600	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0600	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0600	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
合繊くず	0609 再生不可	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0609 再生可能	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0700	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0700	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0700	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0700	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0700	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0700	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0700	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0700	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
ガラス陶磁器	0809 再生不可	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0809 再生可能	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0900	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0900	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0900	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0900	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0900	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0900	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0900	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0900	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
石膏ボード	0909 再生不可	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	0909 再生可能	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1000	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1000	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1000	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1000	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1000	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1000	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1000	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1000	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
がれき類	1009 再生不可	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1009 再生可能	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1100	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1100	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1100	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1100	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1100	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1100	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1100	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1100	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
混合廃棄物	1109 再生不可	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1109 再生可能	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1200	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1200	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1200	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1200	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1200	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1200	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1200	工業用燃料	0.00	0.00	0.00
	1200	工業用燃料	0.00	0.00	0.00

### 埼玉県環境SDGs【サステナブル・ブランド国際会議2022横浜】

◇持続可能な開発目標 (SDGs) と宣言  
 東明興業株式会社は、環境分野のSDGsのゴールの達成に向け取り組むことを宣言します。  
 ①廃棄物 (11, 12, 14) 廃棄物の管理を行い、適正処理に取り組む  
 ②3Rの推進 (12, 14) リデュース、リユース、リサイクルに取り組む  
 ③省エネ (7, 13) 省エネルギー対策に取り組む  
 ④化学物質等 (3, 6, 11, 12, 14) 有害物質含有、石棉・水銀・砒素等の検査・選別・分別・処理に取り組む  
 ⑤社会貢献活動 (3, 4, 6, 7, 11, 12, 13, 14, 15) 地域社会貢献活動に取り組む

1. 廃棄物発電 (①、②、③、④、⑤)

品目	二次処理先	搬出数量 (t)	発電係数 (kwh/t)	発電量 (kwh)	供給世帯数 (世帯)	CO2削減相当量 (ｽｷﾞの木)
木くず	新エネルギー供給株	3.00	359.10	1,077	4	36 本相当
木くず	㈱バイオマス群馬		245.70	0	0	
木くず	㈱エフバイオス		162.76	0	0	
廃ﾌﾗｽﾀｯｸ類、木くず	J&T環境㈱ 東京臨海		182.21	0	0	
紙くず、繊維くず						
廃ﾌﾗｽﾀｯｸ類、木くず	㈱イカヒックス㈱		175.54	0	0	
紙くず、繊維くず						
廃ﾌﾗｽﾀｯｸ類、木くず	㈱ｱｸﾄﾘR&Dセンター		27.06	0	0	
紙くず、繊維くず						
合計		3.00		1,077	4	36 本相当

2. 太陽光発電 (④、⑤)

施設名称	場所	発電量 (kwh)	供給世帯数 (世帯)	CO2削減相当量 (ｽｷﾞの木)
福明坊ソーラー発電所	群馬県藤岡市			
東明坊ソーラー発電所	＃			
宝明坊ソーラー発電所	＃			
合計				

3. 総計

総発電量	一般家庭消費量	供給世帯数	CO2削減相当量 (ｽｷﾞの木)
1,077kwh	300kwh/1ヶ月	4世帯	36 本相当

※契約アンペア数「30A」の1kwhの単価にて算出 (基本月額料金：858円、燃料費調整額：-5.01円、再生可能エネルギー発電促進賦課金：2.98円にて算出)  
 ※一般家庭1ヵ月あたり消費量「300kwh」にて算出。  
 ※ｽｷﾞの木 (樹齢60年) が1年間に吸収する二酸化炭素量＝14kg-CO2  
 ※東京電力エナジーパートナーのCO2排出係数「0.000462t-CO2/kwh」





## 具体的な取組事例③

# 廃棄物

## 環境負荷を下げるができる素材で装飾由来の廃棄物発生を抑制/リサイクル率を向上

新素材の活用でリサイクル率UP、軽量化や分解性向上でトータルカーボンフットプリントDOWN

### 紙素材活用



- ▶リサイクル率の向上
- ▶軽量化による運搬、設営の簡易化
- ▶パーツごとの修理可能な設計

### ファブリック活用



- ▶リユースパーツの活用
- ▶軽量化による運搬、設営の簡易化
- ▶乾式工法によって、現場での水の使用量削減

### ECOターポリン使用 (塩ビ不使用)



- ▶リサイクルの質の向上
- サーマルリカバリー▶ケミカルリサイクル

## 具体的な取組事例③

# 廃棄物

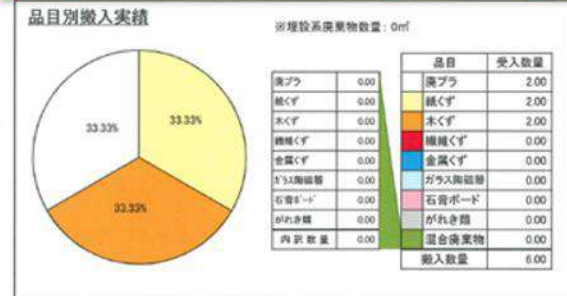
廃材処理の見える化 × 素材選定 = リサイクル率(質)の向上

SB 2021 YOKOHAMA

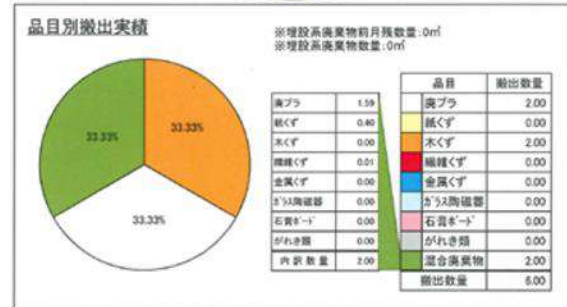
SB 2022 YOKOHAMA

第5回サステナブル・ブランド国際会議2021横浜 計画/実績表

計画	リサイクル率 95%以上	実績	リサイクル率 100.00%
マテリアルリサイクル	33.34%	サーマルリサイクル	66.67%
エミッション	0.00%		

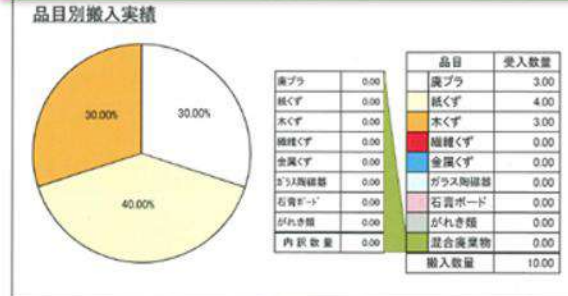


選別・圧縮率	0.00%	選別・圧縮量	0.00 m <sup>3</sup>
--------	-------	--------	---------------------

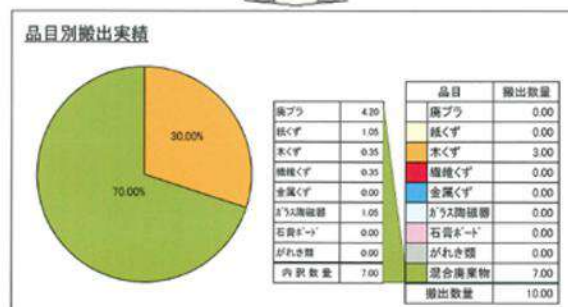


株式会社博展 サステナブル・ブランド国際会議2022横浜 計画/実績表

計画	リサイクル率 95%以上	実績	リサイクル率 100.00%
マテリアルリサイクル	70.00%	サーマルリサイクル	30.00%
エミッション	0.00%		

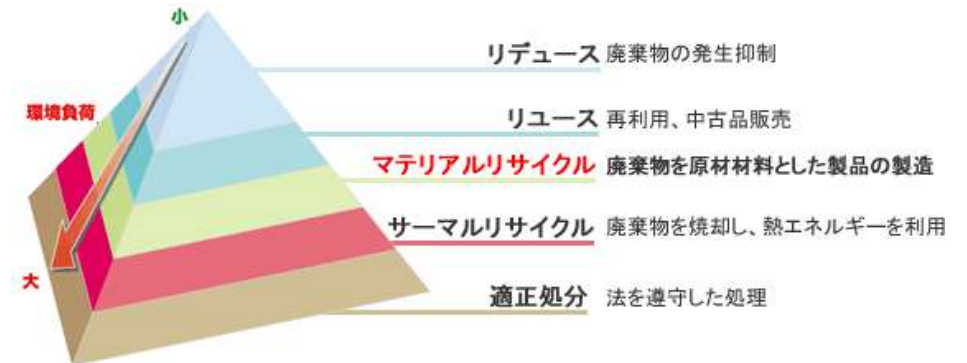


選別・圧縮率	0.00%	選別・圧縮量	0.00 m <sup>3</sup>
--------	-------	--------	---------------------



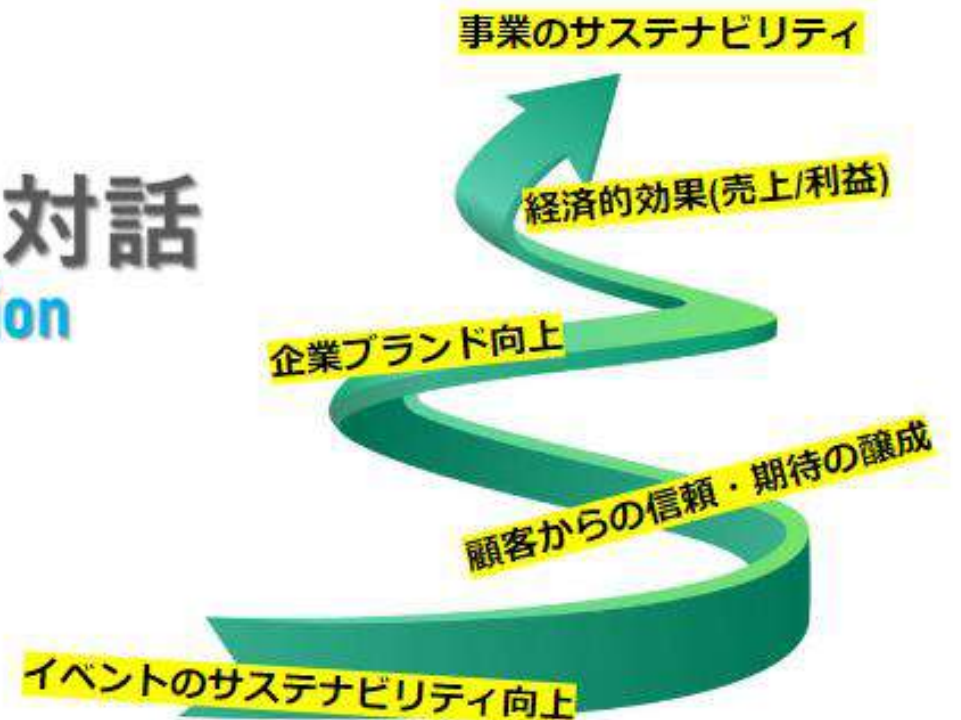
33% ▶ 70% ▶ 100%

素材選定の見直しで  
マテリアルリサイクル率が向上



## ガイドブックを活用することで…

- ▶具体的な施策を立てられる。
- ▶何を指標とするかが定まる。
- ▶定点観測することによって効果が見える。
- ▶関係者にも共通のフレームで情報共有できる。











# 自社の取り組みに活用

1) 既に取り組んでいる場合

- ① 取り組んでいる内容を見直す (ISO規格や各種ガイドラインとの整合性確認)
- ② 追加で取り組むことを設定 (範囲・目標・施策)



2) これから取り組む場合

- ① 自社の中核事業で取り組めることを設定
- ② 関連業務についても取り組めることを設定
- ③ 本格的に取り組む場合、全体方針に戻って見直し・再構築

# イベント制作では打ち合わせツールとして活用



- 主催者・制作者・関係者で基本的な認識を合わせる
- イベントで取り組むテーマ・内容・目標を決める
- ステークホルダーの参画機会を増やす